



お元気ですか！
志村 たかよし です

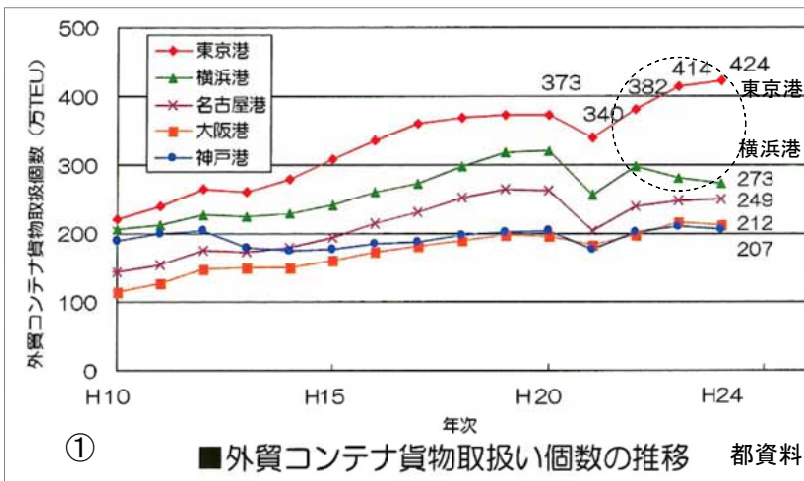
第708号 2014年9月7日

日本共産党中央区議団

中央区 築地 1-1-1
電話 3546-5563
FAX 3546-9570

— 東京港大規模整備計画 —

「港湾問題都区連絡協議会」で問題点を指摘し批判



過大な将来貨物量予測で再編・拡充 ねらう

8月26日、区役所内で、東京都が策定した「東京港第8次改定港湾計画（案）」を中央区と区議会に説明する港湾問題都区連絡協議会が開かれました。

「第8次案」は「世界に誇る都市型総合港湾・東京港の創造をめざし、東京港の再編・拡充・機能強化などをはかる」というもので（裏面参照）、ばく大な税金投入になります。

東京港と横浜港で奪い合い？

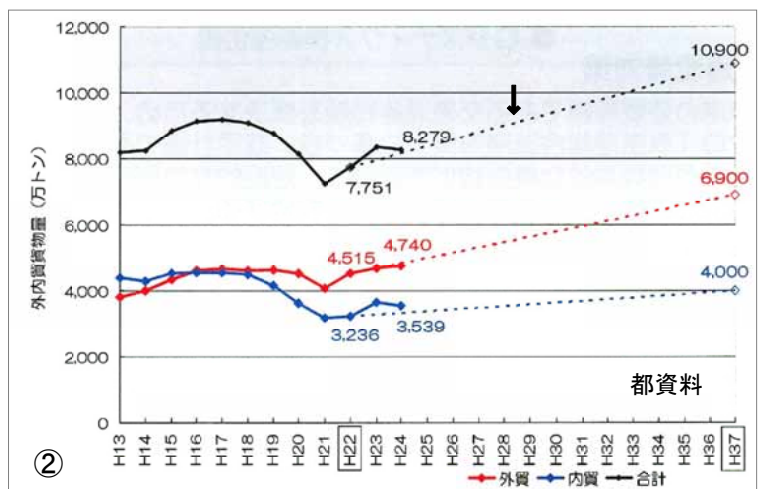
グラフ①について私は、京浜港（東京港・横浜港・川崎港）のコンテナ貨物取扱い個数が横ばいの中、東京港が増えた分が横浜港で減っている（破線円）。貨物の奪い合いだ。今後、東京港を大規模整備した時の横浜港への影響をどう考えるかと聞きましたが、都合は「具体的なデータも示さず「関係係はない」と答えました。

貨物量の目標は未達成なのに

「京浜港国際コンテナ戦略港湾計画書」では、15年の取り扱い個数を890万に設定しているのに、13年は694万でした。私は今後2年間で890万に到達する見通しはあるのか質問したところ、「『戦略港湾計画書』が示しているのは目標の数値」と開き直る始末。結局、増加する見通しが無いことが明らかになりました。

将来貨物量は過大な見積もり

2年後の目標達成の見通しが立たないなか、都は、将来貨物量や



コンテナ大型船の増加を過大に見積もって東京港の大規模整備をしようとしています。

グラフ②について私は、実線部分と比べて破線の右肩上がり（矢印）の角度が不自然なので根拠となる計算式を求めたところ「予測量を足したもの」と答え、科学的なデータは示せませんでした。

私は、過大な見積もりに対しての都の説明は腑に落ちない。計画通り行っていない「第7次」を検証してから「第8次」を策定すべきと批判しました。

過大な見積もりを立てて作った大規模港湾整備計画。都だけでなく国も力を入れています。どれだけの税金が投入されるのでしょうか。鉄とコンクリートのための公共事業そのものです。

ムダな公共事業や軍事費に税金を投入するのではなく、災害に強い国土を作るべきです。市町村に責任や負担を押しつけず、国が責任を持って国民の生命と財産を守ることが求められています。

(1) 外内貿コンテナふ頭の再編・拡充・機能強化など

○ 物流機能を強化するため、次のとおり計画する。



■ 物流機能の配置計画と強化策

都資料

意見・要望などお気軽に連絡ください (03)6390-0000